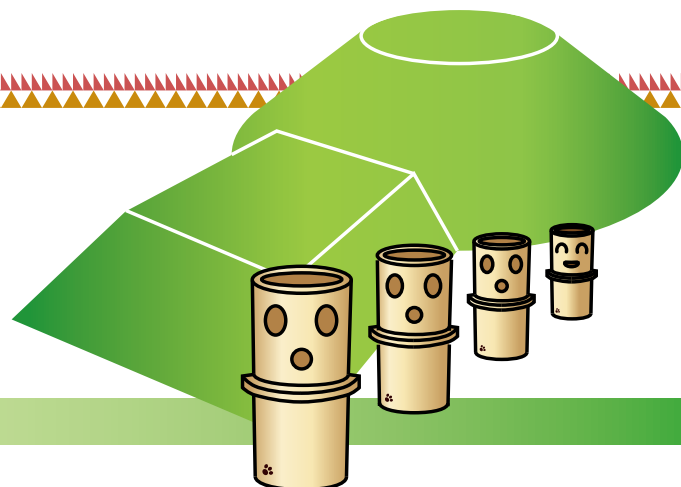


やまだ さくらだに 山田桜谷 1 号墳 (第3次) ごうぶん

調査期間：令和7年1月14日(火)～ 3月14日(金)

調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

1 はじめに



調査地は、西京区山田桜谷町ほかの国有林内に所在します(図1)。山田桜谷1号墳は山田桜谷古墳群の一部であり、桂川右岸域・乙訓地域に広がる「乙訓古墳群」に含まれています。乙訓古墳群は、古墳時代前期初頭から終末期まで首長墓が築造された、全国的に見ても希少な古墳群です。そのうち、遺存状況が良く、年代などが明らかになったものは、国史跡に指定されています。

山田桜谷古墳群は、昭和61年に(財)京都市埋蔵文化財研究所の職員により踏査中に発見されました。発見時に採集した埴輪や須恵器の年代から、築造時期は5世紀後葉と推定されています。

平成元年に京都大学考古学研究会が測量調査を行い、平成30年には京都市が航空レーザー測量を実施した結果、前方部や側面側に直線地形があることを確認しました(図2)。これにより、古墳造営に伴う痕跡が残存する可能性が高まりました。

その後、令和2年度にさらなる詳細測量調査を行い、その成果を基に、山田桜谷1号墳の規模や年代を把握する目的で、令和4年度から本格的な発掘調査を開始しました。

その結果、前方部前面で葺石を、その東側で土壇状遺構を、さらにその上面で楕円形状にめぐる円筒埴輪列を検出しました。この埴輪列周辺では、人物埴輪や家形埴輪などの形象埴輪が多数出土しました。また、後円部側でも墳丘裾などを確認しました。

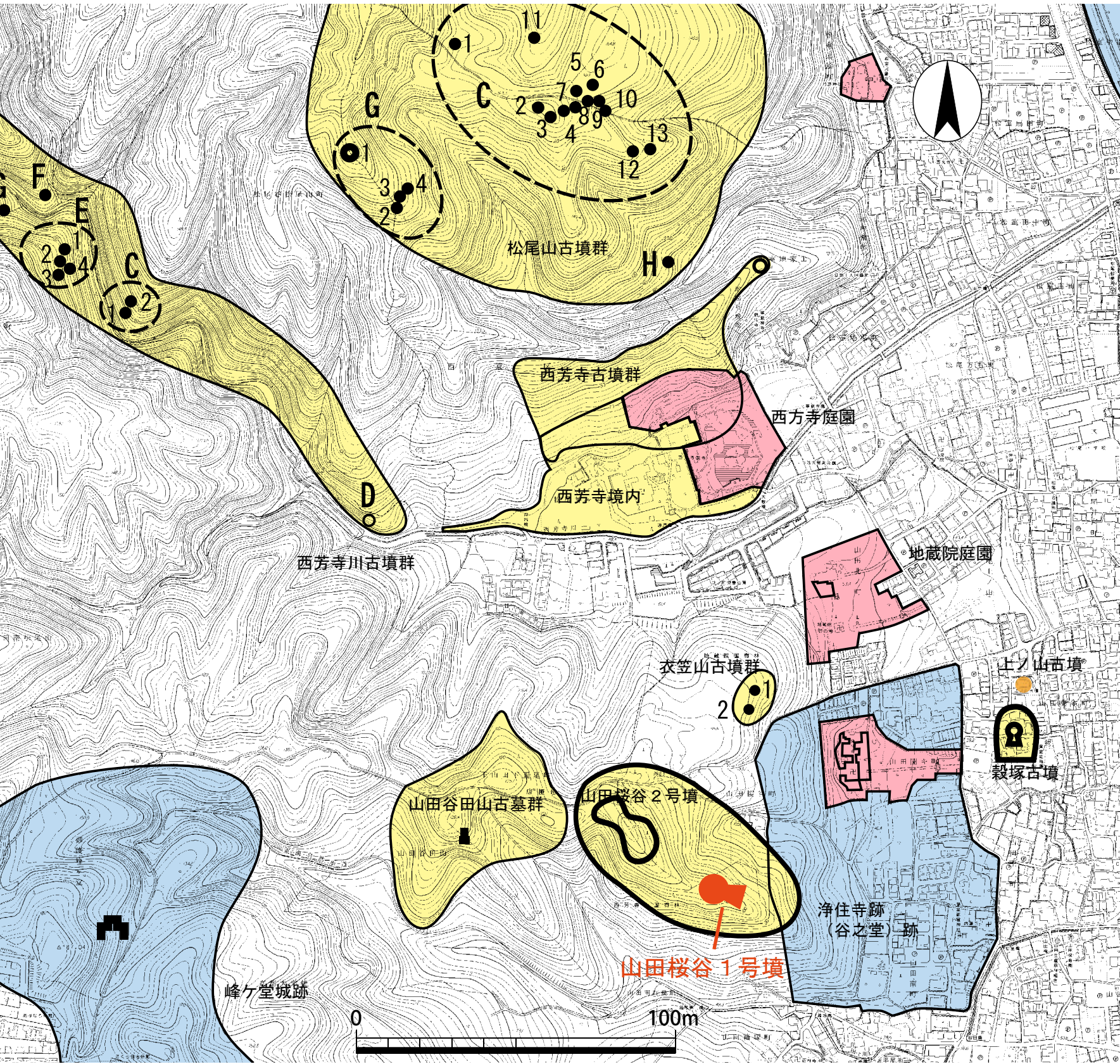


図 1 調査地位置図

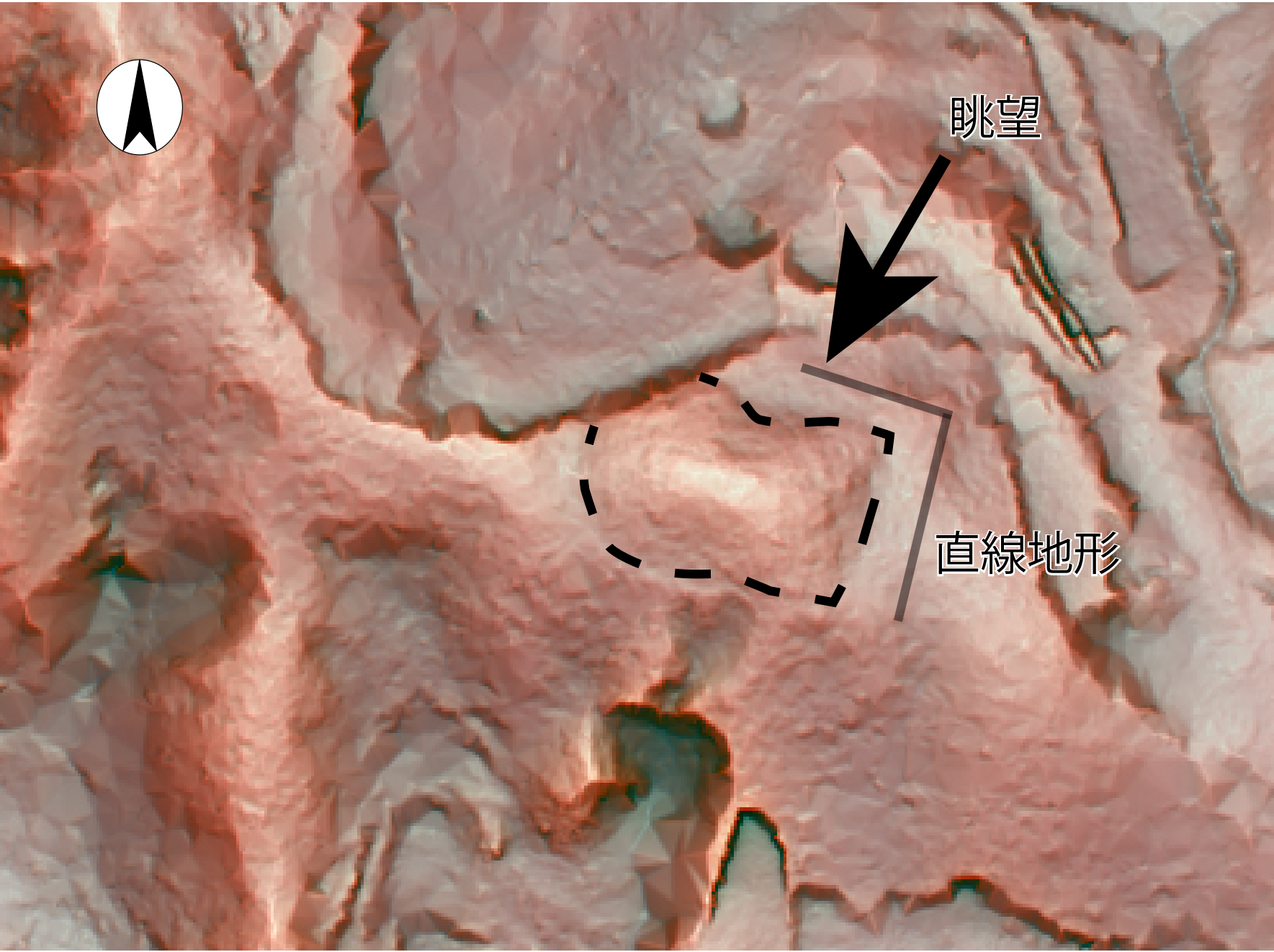


図 2 山田桜谷 1 号墳 赤色立体地図



今回の発掘調査成果

第3次となる今回の調査では、5～10区を設けました。以下、各調査区の概要を説明します。

5区（前方部前面中央部）

葺石を裾部（葺石1）及び斜面中腹（葺石2）で確認しました。裾部付近は地山削り出しで、標高 101.6 mで墳丘盛土を確認しました（図8・9）。

6区（前方部前面）

葺石、裾部と考えられる傾斜変換点を確認しました。基底石が前方部側面に向かって屈曲ないし湾曲する状況を確認しています。前方部南東隅は隅切もしくは隅丸を呈する可能性があります（図5）。

7区（前方部側面南側）

前方部側面の墳丘裾部と考えられる傾斜変換点や墳丘裾付近を地山削り出し、標高 101.4 m以上で墳丘盛土を確認しました。葺石の確認はできず、出土した石材が少量であることから葺石はなかった可能性が高いと考えられます（図4）。

8区（くびれ部南側）

古墳の上にたまった流土を除去すると、緩やかなカーブを描く形状を確認しました。墳丘盛土は確認できませんでしたが、地山削り出しを確認しました。また葺石は確認できず、出土した石材が少量であることから葺石はなかったと考えられます（図3）。

9区（墳頂部）

表土直下で、墳丘盛土を確認しました。現代盛土が認められないことや、前方部と後円部に比高差が認められないことから、墳頂部は後世に削平を受けている可能性があります（図6）。

10区（前方部側面北側）

墳丘中腹で葺石の可能性がある石材を一石確認しました。また標高 101.3m 以上で墳丘盛土と考えられる土層を確認しました（図7）。



3 おわりに

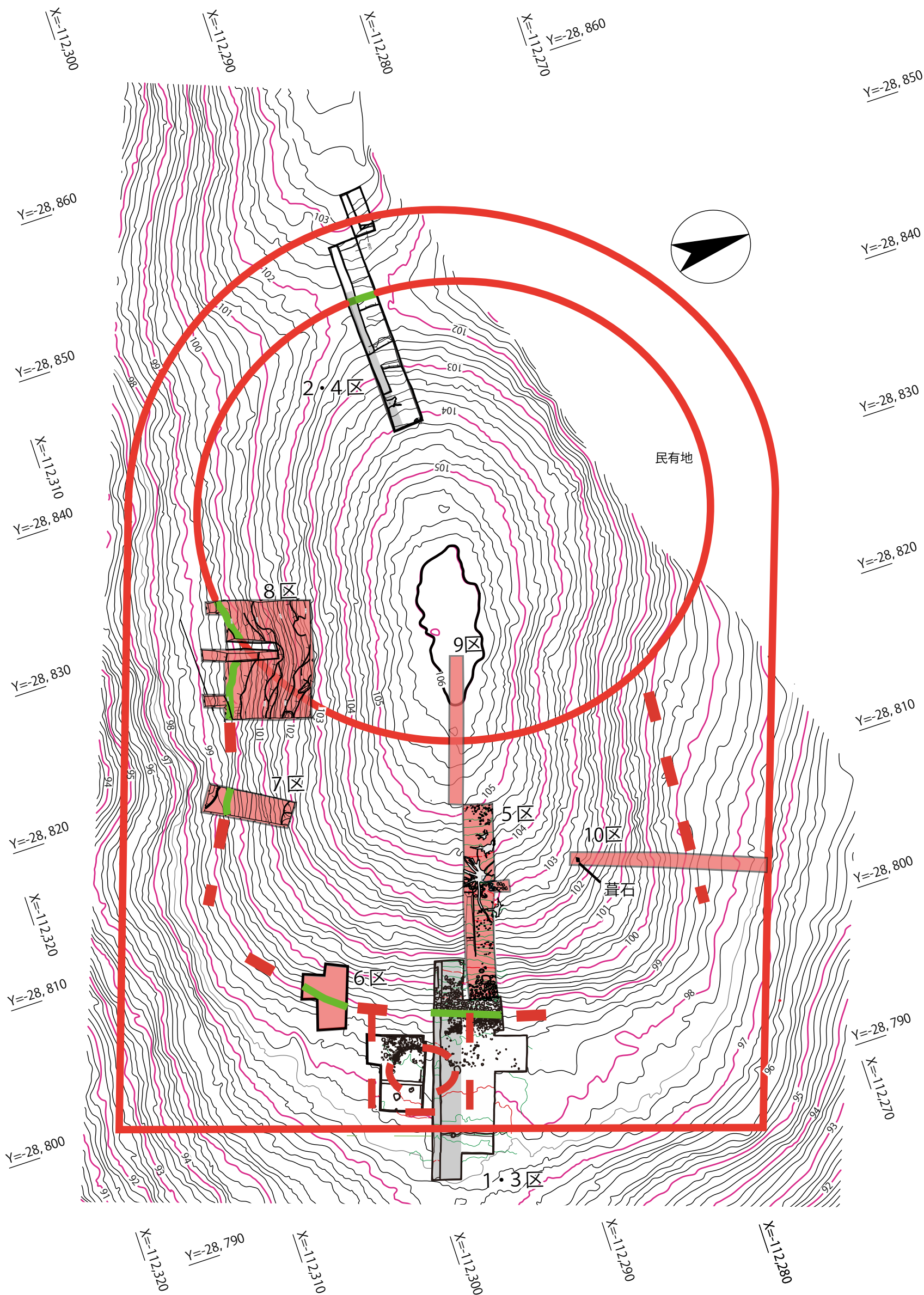
今回の調査では、これまで不明瞭であったくびれ部を確認したことにより、山田桜谷1号墳が前方後円墳であることが確実となりました。また6区の成果から、前方部の隅角部が隅切もしくは隅丸を呈する形状であることがわかりました。

さらに墳丘には段築は無く、前方部前面に葺石が葺かれていたことも明らかとなりました。平成元年の京大考古研の調査では、後円部北西側で葺石が確認されていることから、墳丘北半にも葺石が存在する可能性が考えられます。このほか今回の調査で墳丘盛土を確出できたのは、標高101.6 m以上を測る5・7・10区のみであり、それ以下の地点では、地山を削り出して墳丘を造っていることがわかりました。

第1次・第2次調査（令和4・5年度）では、前方部前面東側において、葺石・円形埴輪列・土壇状遺構や直線地形などを確認しています。多様な外表施設を施工していることから、前方部前面の東側は、古墳への視線を意識して造営されていると考えられます。

さらに、同様の直線地形は、古墳の北側においても確認できます。古墳の北側からは、太秦・嵯峨野地域を眼下におさめることができます。このため、山田桜谷1号墳は、平野に立地する集落からの眺望を意識し、北側を正面として造営された可能性が考えられます。

（清水 早織）



- 令和4年度調査区(1・2区)
- 令和5年度調査区(3・4区)
- 令和6年度調査区(5～10区)

図3 調査区配置図



図3 8区全景（北西から）



図3 7区全景（南から）



図5 6区全景（南東から）



図6 9区全景（南東から）



図7 10区全景（北東から）



図8 5区全景（南東から）



図9 5区中腹付近葺石検出状況（東から）